

「先輩たちの姿は見たいたい！」

今朝、早めに登校してきた一人の一年生に私は尋ねました。「明日は休みだね。卒業式に出たい？それとも、休みの方がいい？」

その生徒はしばらく考えてから、はつきりと答えました。「休みはうれしいけど……先輩たちの姿は見たいです！」

実に素直な回答でした。そして、実にうれしい反応でした。「卒業式に出たい」とストリートに言われるよりも、私の心は揺さぶられました。なぜなら、それが偽りのない正直な気もちなのだろうなあと考えたからです。

脇役の後輩たちにとっては、座っていることが多い退屈な時間、身なりや姿勢に気を配っていなければならぬ堅苦しい場、そして、自分たちにはスポットが当たらないつまらない行事と映るはず。「中学校で最も大切な行事」とはわかっていても、それがなかなか実感できないのが子どもです。

その子ども部分を素直に出しながら、これまで一緒に学校生活を送ってきた卒業生の姿が見たいといった後輩……これこそが、紛（まぎ）れもない本当の思いだと感じました。

年度当初、卒業式では何とかして後輩たちに卒業生の姿を見せたい、と私は考えていました。後輩たちが体育館に入れないなら、教室に入れてリモートでも、と目論（もくろ）んでいました。実際に見せることで、中学生の巣立ちの姿が具体的に焼き付き、後輩たちの自覚とモチベーションアップにつながるかと考えていたからです。

しかし、感染が昨年度以上にシビアな状況になっており、まだまだ予断を許さないことや、リモートでやるには多くの課題が存在することがネックとなり、やむなく後輩の参加をあきらめました。

卒業生の姿を後輩に見せることはできませんが、「先輩たちの姿が見たい」という思いが後輩たちに芽生えていること、そして、そのように思われ、思わせる先輩後輩の関係が生まれ、中につながっていました。生徒たちはこれまでの学校生活のとなり、毎日同じことの繰り返しに思える日々でしたが、その中で後輩は先輩の姿から多くを学び、慕っていたのです。

いよいよ明日が卒業式です。「感染予防策を講じて」という指示も来ていますので、時間短縮や参加者限定などの策は施します。しかし、卒業生に対する祝福や感謝、励ましの思いは決して短縮や限定はしません。めいっばい思いの詰まった卒業式にするつもりです！

（三月四日記）



後輩たちが準備してくれた
卒業式会場